

いきいき健康術 第64回

『インフルエンザにまつわる 意外な話』

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員が皆さんにお届けする健康情報コーナーです。
今回の担当は京丹波町病院内科医師の藤井渉先生。
冬場に流行するインフルエンザに関するお話です。

予防疫種を打ったのに インフルエンザにかかった？

予防疫種は、六十五才以上の方の四十五パーセントの発病と八十パーセントの死亡を減らす効果があるといわれています。つまり予防疫種を打つてもインフルエンザを百パーセント防ぐことはできず、最も重要なのはうがい、手洗いなどの基本的な予防法です。しかし高齢者や肺、心臓などに病気がある方には、重症化を防ぐためにも予防疫種をお勧めします。

インフルエンザのときに 風邪薬を飲んではいけない？

一般的な解熱薬であるボルタレン[®]([®]一般名：ジクロロフェナクナトリウム)を服用したインフルエンザ患者さんが、脳症を発症したという報告例があります。市販の風邪薬には様々な成分が含まれている場合がありますので、インフルエンザかもしれないと思ったらまず医師にご相談ください。解熱薬の中でもアセトアミノフェンという薬は比較的安全といわれています。

薬を飲まなくても治る？

インフルエンザは、ウイルスによる感染症ですので、通常は約一週間でウイルスが体外に出て自然に治ります。早く治すために一番有効な方法は、十分な栄養と水分を摂り、ゆつくり休んで安静にすることです。ただし、高齢者や乳幼児、免疫力の低下している方は、インフルエンザ治療薬の投与が望ましい場合があります。治療薬には飲み薬、吸入薬、点滴薬があり、発病後二日以内に使用すれば一〜二日早く治るといわれています。
体調を崩しやすい季節ですが、十分栄養と休養をとり、抵抗力をつけて寒い冬を乗り切りましょう。



内科医師 藤井 渉 先生
(京丹波町病院)

京丹波町病院情報

京丹波町病院では、毎月の第二・第四土曜日の午前中に内科と小児科の診療を行っています。

☎ 86-0220